拝啓、

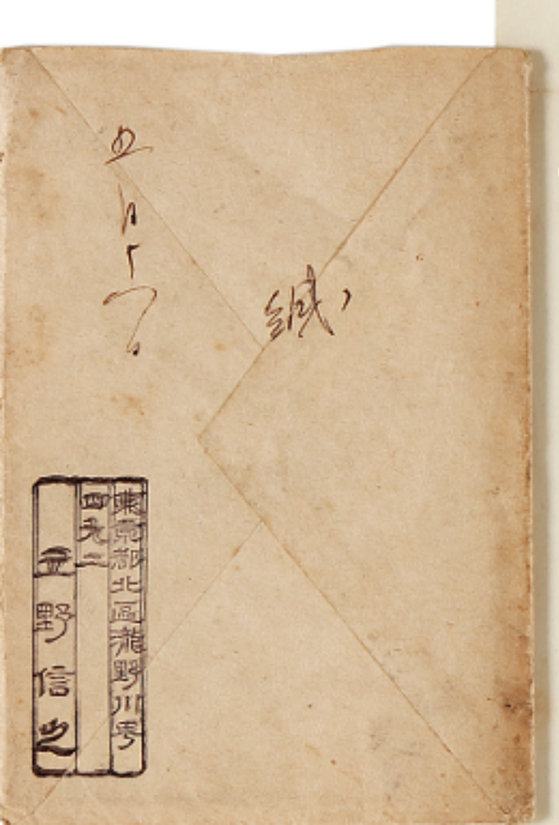
この後御葉父の御病気はいかが
十日か十一日の午前中に、電報為替を御使社が
英之叔に送って参りましたが――差出人は小生の
名前――とでいたろうか。実は、もっと前――七日
か八日に頼んだのだが、御使社が会計がお休を
していたのだ。それを知らずにいたく
しておしおく十一日に改めて送らせたわけ――
が行って発足して、
ルはや！　至急お二方三千円。
そんな中で、墓の建立に、金が間に合わな

雲井書店

いのではかどかと、と思っている。ぼくらのまでは、何ものにもおらず、いつもそんな結果にする。
困ったことだ。で、若し間に合わず、いつもの
にどうとかいうことに対しては、すべて兄之
の御処置にお任せする。どうも手紙をかいて
御済まん。小生、目下多夜間勤に従事し、
毎日にお疲れ、飲み歩き、結労を積み重ねて
います。はやくこれが無くなってしまいます。
み思いのようにせていきます。

五月十一日

立之

兄上様

雲井書店